

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.10

日時	2013年月25日
行脚先	建仁寺 両足院
住所	京都市東山区大和大路通四条下ル4丁目小松町591
行事名	

特徴

両足院は、建仁寺の開山・明庵栄西禅師の法脈・を受け継ぐ龍山徳見禅師を開山とする臨済宗建仁寺派の塔頭寺院です。

現在の両足院は、開山当時「知足院」と号していました。知足院は、龍山徳見禅師の遺骨が知足院に葬られてからは、徳見禅師の法脈を継ぐ当院3世文林寿郁の両足院・一庵一麟の霊泉院などの黄龍派寺院の本院でした。

創建された当時の両足院は、知足院の別院、または徒弟院(つちえん)として建仁寺開山堂・護国院の中にありましたが、天文年間の火災の後、「知足院・両足院」両院を併せて「両足院」と称する事となり現在に至ります。

改称に関しては、諸説ありますが、一説として、時の天皇・後奈良天皇の諱名「知仁」に触れた事が原因とされています。以後両足院は、安土・桃山から江戸時代の8世利峰東銳の代までは主に、饅頭の祖である林浄因の子孫によって、霊泉院は龍山和尚の生家・千葉氏出身の禅僧たちによって、護持されます。なお、霊泉院は、現在は霊源院と改められて今も存続します。

また江戸初期までは、知足院と霊泉院が輪番で建仁寺開山堂・護国院を守塔していたこともあり、建仁寺開山明庵栄西禅師の直系黄龍派の中心寺院であったことがわかります。

黒田官兵衛との関わり

黒田官兵衛の息子・長政は、関ヶ原の合戦でこちらに伝わる毘沙門天像を兜の中に納めて必勝祈願しました。明治10年に両足院に寄進されてからは、祇園の芸舞妓さんたちの縁結びの神様としても親しまれています。写真は御前立(秘仏を守護する仏像)で、今冬の特別公開では実際に内兜に納められていた毘沙門天像も公開されます。他にも織田信長の弟・有楽斎が建てた茶室「如庵」を復元した「水月亭」、桃山時代の絵師長谷川等伯の「水辺童子図」などが特別公開され、戦国の息吹を感じることができます。

記録

